

下田市内の指定文化財その20

下田市指定史跡

下田城址 (天守台と空堀)

昭和48年6月12日指定
所在地 下田市3丁目
あじさい祭や黒船祭の式典会場として多くの人々に親しまれている下田公園は、今からおよそ400年前に築かれた戦国大名後北条氏の山城で、伊豆半島では最大規模のもです。



下田城空堀

下田城の戦い

北条早雲を始祖とする後北条氏は、小田原城を根拠地として伊豆・関東地方を広く支配していました。やがて天下統一を目指す豊臣秀吉との関

豊臣方の勧告を受け入れ降伏し、開城しました。



下田城復元模型(道の駅開国下田みなと展示)

下田城の特徴

下田城は三方を海と断崖に囲まれた天然の要害の地に構築されており、天守台と呼ばれる高台を中心に深い堀と、曲輪と呼ばれる陣地などの防御施設が水軍の基地である湊(現在の公園入口の駐車場周辺)を守るように配置された独特のもので、特に空堀は後北条氏築城の特徴の一つである畝堀(仕切りのある堀)となっており、今日でも見ることが出来るほど良好に残存しています。

秀吉は後北条氏を倒すために陸路と海路の二手に軍勢を分け小田原城を目指しました。海路をとった豊臣方水軍は、長曾我部元親・九鬼嘉隆・脇坂安治らが率いる一万人を超える大船団で、天正18年2月に清水湊に集結し、伊豆西海岸の後北条氏配下の諸城を制圧しながら、3月中旬には下田城を包囲し、海上を封鎖しました。対する下田城の兵力は5〜600人と推定され、城主清水康英は圧倒的な豊臣方の兵力を眼前に籠城を続けましたが、天正18年4月末に

下田城より徒歩15分
問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎5055

樹のまち vol.62

昨年、夕張市が大きな借金を抱えて財政破たんした事は日本中に衝撃を与えました。また、熱海市における、財政危機宣言も全国ニュースに取り上げられ、観光都市のイメージが揺らぐと波紋を呼ぶなど全国的に地方自治体の台所事情がクローズアップされ、自治体財政に対する住民の関心が一層高まっています。「市長さん！下田も借金が多くて前の合併も周りの町から嫌われてできなかったじゃ。夕張みたいにならないでしようね？」何人の市民からこんな質問を受けたでしょうか。ですから財政再建を公約にし、就任直後から財政再建に取り組んで、危機的状況をすんで市民の皆さんに説明してきたじゃないですか。市職員と一緒に、県内のどこの市町よりも早くから取り組んでいます。「ご理解下さい」。

少し数字を挙げて示してみよう。市長に就任した平成12年、市の職員数は328人。この4月からは274人。54人の職員を減らすことができました。22年までに268人まで減らすという計画をすでに12人上回るペースです。

就任時の借金は25.1億円でした。どうしても完成させたかった。みなと橋、架け替えのため借金をしましたが、昨年までに23.6億円まで削減。18年度全会計での収支状況では9億円借金が減少し2.27億円になりました。ここまで24億円借金を減らすことができました。今後は、昨年5月に策定した市民の皆さんにお示した「下田市中改革プラン」の完全実施により、これから4年間で27億円削減をし、平成22年度までに借金残高が200億円以下になるよう目指します。対策として、「歳入の確保」「歳出の見直し」により、地方債発行額4億円以内を遵守し、利息の高い地方債の繰上償還や借換えによる負担軽減を進めてまいります。

市職員には昨年に続き給与カットを受け入れていただきました。この為、私を含む三役と職員は県下42市町で一番安い給与となりますが、全員で下田市の財政基盤を強固なものにするため、心して頑張っておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

下田市長 石井直樹



下田の風景を大切に！

「下田らしさ」って何？ 後世に残したい風景は…

まちづくりのなかで
No.17

蓮台寺のしだれ桃

里山及び農村風景

くらしを感じる風景
(魚屋、ひもの屋など)

風光明媚な海岸線

〈伊豆の中の下田〉

伊豆西海岸 天城山 伊豆東海岸

心が落ち着く
たくさんの寺社

漁船、海女さんなどの
漁港風景

海水浴場の白い砂浜

下田の象徴太鼓祭

歴史的な建造物を活かしたまち並み

これから市民の皆様と一緒になって探していきたいと思います。

今後景観行政に積極的に取り組むため、景観法上の「景観行政団体」となる手続きを進めています。予定では、平成19年4月1日から事務を開始し、景観計画策定への準備に入ります。

下田の歴史、自然、文化に親しみ、住んでいなくなる、また来なくなる都市を目指して・・・

下田市には海岸線やまち並み、里山等々の資源が豊富にあり、また地域の文化、身近な生活風景などを含めた広い意味での「景観」の素材も多いです。こうした資源や素材を活かし、良好な景観を後世に渡って残していくことが、未来の下田にとって必ず必要なことだと考えています。

これから市民の皆様と一緒になって探していきたいと思います。

問合せ先 ▶ 建設課伊豆縦貫道係 ☎22-2219 FAX27-1007 E-mail:kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp